



親心について

石井 映美 (保健管理センター 精神科
人間総合科学研究科 助教)

保健管理センターでは、非常勤で5年余りお世話になっていましたが、この6月より常勤で勤めさせていただくことになりました。実に20数年ぶりのキャンパスは、懐かしさで一杯です。気持ちを新たに、学生や職員の皆さんの応援をさせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

学生生活

さて本学の学生は毎年全国から集まるので、親元を離れて初めての一人暮らしという方も多いことと思います。掃除、洗濯、食事の支度など、身の回りのことは思いの外大変で、親のありがたみをしみじみ感じる方も多いでしょう。ところが数か月たつと、それらも手のぬき具合がわかってきて、慣れてきます。部活動に没頭したり、友人との付き合いもつい深夜・明け方まで及んだり、若さにまかせて無理もします。ああしなさい、これはダメ、と口うるさい(?) 人がいない自由を満喫し、若さの特権を十二分に味わう毎日です。すべてうまくいってれば、それはそれで良いのかもしれません。ところが、です。筑波での学生生活は今も昔も一種独特です。サークルやクラスの、閉じられた狭い人間関係ですから、ちょっとした気持ちの行き違いはそこそこで起こる上に、翌日もその翌日も、そこから逃げるできません。また、友人の悩みにとことん付き合い、一緒になって気をもんで振り回され、疲れ果ててしまうこともあるでしょう。元々人付き合いがとても苦手で、生き生き活動するクラスメートと自分の違いに呆然とし、自室から出られなくなってしまう人も少なくありません。入試のとき試された学力以外の力、言うなれば“生きる力”を問われることがたくさん起きてきます。そしていつにない疲れ、落ち込みを感じたとき、皆さんはどうしますか。実際のこの年代は、重大な心の病の好発時期でもあるのです。

親の出番

友人に相談して解消する範囲を超えたら、またその友人がうまく作れない時、やはり親を思い出すのが自然です。そして親の方も、子どもを筑波に見送

り、さてこれからは自分の人生などと思っはいますが、子を忘れることはありません。電話での声の調子や、微妙な言い回しなどで、大抵はその不調を感じ取っているものです。それなら、すんなり親を頼ることができるかという、そうでないことも多いのです。一度親元を離れ自由を謳歌すると、年齢相応に親の欠点や弱さもわかり、うっとうしく感じるのは理解できます。また、親に心配をかけたくない思いがとても強い人もいます。だからと言って、親の代わりになれる人がいるのでしょうか。たとえどんなに親しく支えあえる友達でも、その人の意思に反して休ませたり、治療を受けさせたりする権利や自由はありません。本人の意思を尊重するか、適切に行動するかで、友達は板挟みになってしまいます。友達に親の役割まで任せ続けるのは、酷というものです。時々、仲間を支え続けて疲れ果ててしまった学生の姿を、診察室で拝見することがあります。

子が思う以上に

どうしてご両親に不調を打ち明けないの、と尋ねると、「うちの親は、とても変わっていて独善的で、理解してくれそうにない」と多くの学生が言います。ところが思いがけずご両親の方から出向いてくださった時、そう思っこちらが身構えていると、拍子抜けするくらい話がスムーズに進むことがよくあります。時には、言い回しが独特だったり、驚きのあまり攻撃的にみえる方もいらっしゃいますが、教育に熱心な親であれば、どの方も子どもを大切に思っているものです。そのご両親なりの考えで、一番子どもに良いように、と願っているのです。状況をよく説明し、困っていることを伝えさえすれば、どの親も受け止めてくれるはずで、血は水より濃く、親の愛は子が思う以上に深いのです。これは親にならないとわからないものかもしれません。頼られて嬉しいのもまた、親心なのです。

それでも、やはり何となく親には打ち明けにくい…とおっしゃるあなた。そこは我々スタッフが、喜んで橋渡しをさせていただきます。



ひとりで悩まず ほけかん 保健管理センターへ

保健管理センター受付 029(853)2410
学生相談室受付 029(853)2415